



2025 年 11 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社オーハシテクニカ
代 表 者 代表取締役社長 廣瀬 正也
(コード：7628 東証プライム)
問合せ先 取締役経営企画部長 堀 正人
TEL：03-5404-4420

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」のアップデートに関するお知らせ

当社は 2024 年 11 月 12 日に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について公表致しましたが、2025 年 11 月 28 日開催の取締役会において、現状、及び今後の更なる改善に向けた対応策について検討しアップデートを行いましたので、お知らせいたします。

記

1. 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」のアップデート

(1) 現状認識

- ① 当社は 2027 年度を最終年度とする 6 年間の「中期経営計画～Mission2025+2～」を展開しており、「経済的価値の追求」による業績の拡大と共に、「社会的価値の創造」によるサステナブル社会の実現への貢献を目指しております。
- ② 業績については、コロナ禍以降、為替の円安推移もあり、売上高は比較的堅調に回復しつつあります。しかしながら利益面では、仕入れ価格・原材料価格の高騰、労務費増加等のコストアップ要因の販売価格反映の遅れや、製造部門での生産効率の低下、更に中国における事業環境の激変による損失計上等により水準低下が続きましたが、2025 年 3 月期に漸く営業利益、当期利益が回復に転じました。
- ③ ROE（自己資本当期利益率）は 2024 年 3 月期に 2.8%に低下した後、2025 年 3 月期に 4.0%に回復しましたが、当社の資本コスト（8%程度、WACC）を依然下回っており、株主価値を生み出していない状況が続いております。
- ④ また ROE と PER（株価収益率）を乗じて算出される PBR（株価純資産倍率）は、2025 年 3 月期で 0.6 倍に留まっております。これは ROE の回復の遅れに加え、当社の成長に向けた事業戦略、成長戦略について市場より未だ十分な評価を得られておらず、株価の上昇が限定的であり、PER は 15 倍程度に留まっております。
- ⑤ 当社は 2024 年 11 月に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を公表し、ROE、PER、PBR の改善に向けた対応策、及び中期経営計画期間中のキャッシュ・アロケーション計画を開示いたしました。今般、過去一年間の諸施策の進捗を確認すると共に、今後の対応方針を再確認し、アップデートを行いました。

(2) 過去一年間の進捗

- ① ROE（自己資本当期利益率）の改善
 - ・ 2025 年 3 月期は仕入れ価格、労務費等のコストアップ要因の販売価格への反映と製造部門の生産効率改善を進めた結果、売上総利益率は 1.0%良化しました。この結果、各利益は増益となり、ROE は 2.8%→4.0%に回復しました。
 - ・ 2026 年 3 月期第 2 四半期に於いても売上総利益率は前年同期比 0.9%良化しており、今後これら施策の着実な実行と、中国事業の損益改善等に注力し、収益力回復に努めます。

- ・また配当、自己株式取得の検討・実施による純資産水準の適切なコントロールにも努め、財務レバレッジの向上を目指します。

② PER（株価収益率）の改善

- ・2025年3月期末のPERは15倍に留まっておりますが、当社の事業戦略、成長戦略について市場によりご理解を頂くため、機関投資家、個人投資家の皆様に対するIR活動を強化しております。

ア) 機関投資家とのIR面談の強化、機関投資家向け決算説明会の再開

イ) 個人投資家向け会社説明会の開催

- ・また、株主還元の強化や個人投資家の皆様が投資し易い環境の構築に努めております。

ア) 株式分割（1株を2株へ分割、2025年12月末基準で実施予定）

イ) 累進配当方針の追加（2025年度期末配当から実施予定）

ウ) 株主優待の拡充（2025年9月末基準）

③ PBR（株価純資産倍率）の改善

- ・2025年3月末のPBRは0.6倍、直近では0.7倍程度に留まっておりますが、①②の各施策を着実に実行し、早期のPBR1倍以上の実現を目指して参ります。

④ キャッシュ・アロケーション計画

- ・2024年度～2027年度までのキャッシュ・アロケーション計画に対する、2025年度末の実績予想を作成しました。
- ・開発投資に一部遅れはあるものの、設備投資、ESG投資、株主還元は、概ね計画に沿って進捗していると判断しております。
- ・今後も更なる成長に向けた投資を積極的に検討すると共に、株主還元強化についても機動的に検討・実施し、キャッシュポジションの効率的運用に努めて参ります。

詳細につきましては、添付資料をご参照下さい。

2. コーポレートガバナンス報告書のアップデート

今回の「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」のアップデートに伴い、コーポレートガバナンス報告書を本日付で更新しております。

<当社業績、経営指標推移>

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高(百万円)	35,905	29,782	32,545	34,974	39,212	40,017
営業利益(百万円)	3,265	2,105	2,272	2,061	1,641	1,782
当期純利益(百万円)	2,460	1,540	1,791	1,283	1,006	1,522
自己資本比率 (%)	74.4	74.2	76.3	80.5	79.1	80.4
ROE (%)	8.0	4.9	5.6	3.8	2.8	4.0
期末株価 (円)	1,332	1,571	1,293	1,571	1,644	1,841
一株当たり純資産額 (円)	2,136	2,198	2,401	2,610	2,780	3,024
PBR (倍)	0.6	0.7	0.5	0.6	0.6	0.6
1株当たり配当金 (円)	52	52	※ 57	57	60	68
配当性向 (%)	31.2	49.0	44.8	60.0	79.9	58.6

(※70周年記念配当5円を含む)

以 上

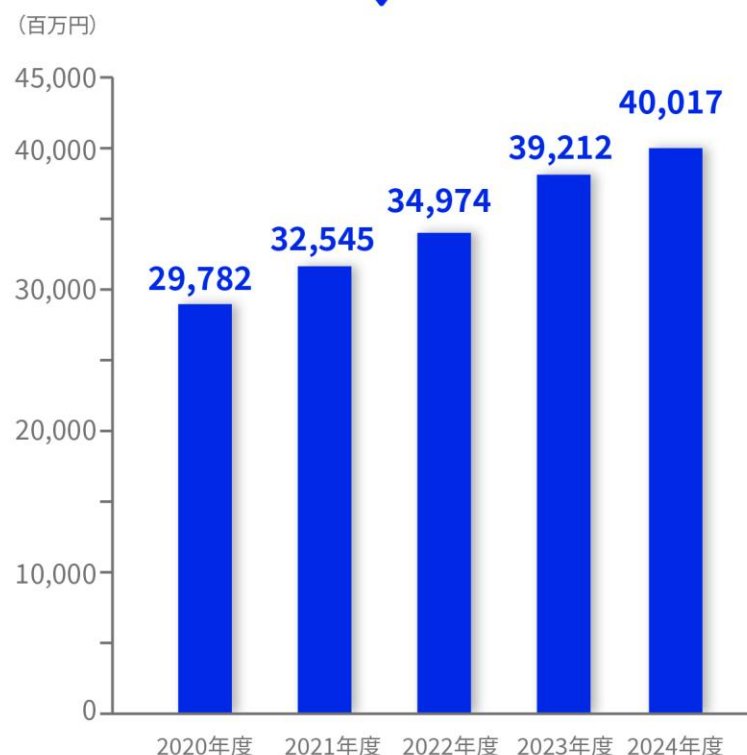
資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応 (2025年11月 アップデート)

株式会社オーハシテクニカ

2025年11月28日



売上高



営業利益、当期純利益、ROE



期末株価、一株当り純資産、PBR (倍)



資本収益性及び株価に対する現状分析

- ① コロナ禍の2020年度に大幅な減収減益となって以降、売上高は為替換算の円安効果もあり、回復基調にある。
- ② 営業利益については、原材料価格・仕入価格の高騰、人件費の上昇、及び中国事業での大幅な減収に伴い、2023年度まで低下。2024年度は販売価格改定の進捗、製造部門の生産性回復が寄与し、増益に転じた。
- ③ ROEは利益水準の低下に伴い、2019年度の8.0%から2023年度の2.8%まで低下したが、2024年度は4.0%に回復。
- ④ 株価は2024年11月に本計画を開示後、上昇基調にはあるが、自動車業界全体に対する不透明感も漂う中、当社の成長戦略に対する市場評価も十分とは言えず、株価上昇は限定的である。(2025年3月末：1,841円、2025年9月末：2,180円)。
- ⑤ 2024年度のPBRは、ROE：4.0%、PER：15倍を反映し、0.6倍に留まる。(ROE 4%×PER 15倍→PBR 0.6倍)

PBR (株価純資産倍率) = (1) ROE (自己資本当期純利益率) × (2) PER (株価収益率)

(1) ROE		=		ROA						×		財務レバレッジ				
ROE				売上高当期純利益率 (%)					総資本回転率 (回)					財務レバレッジ (倍)		
2019年度	8.03%	=	当期純利益	2,460	6.85%	×	売上高	35,905	0.85	×	総資産	42,154	1.38			
			売上高	35,905			総資産	42,154			純資産	30,629				
2020年度	4.91%	=	当期純利益	1,540	5.17%	×	売上高	29,782	0.70	×	総資産	42,249	1.35			
			売上高	29,782			総資産	42,249			純資産	31,383				
2021年度	5.57%	=	当期純利益	1,791	5.50%	×	売上高	32,545	0.76	×	総資産	42,745	1.33			
			売上高	32,545			総資産	42,745			純資産	32,163				
2022年度	3.76%	=	当期純利益	1,283	3.67%	×	売上高	34,974	0.80	×	総資産	43,501	1.28			
			売上高	34,974			総資産	43,501			純資産	34,100				
2023年度	2.80%	=	当期純利益	1,006	2.57%	×	売上高	39,212	0.84	×	総資産	46,522	1.25			
			売上高	39,212			総資産	46,522			純資産	37,260				
2024年度	4.00%	=	当期純利益	1,522	3.80%	×	売上高	40,017	0.82	×	総資産	48,683	1.23			
			売上高	40,017			総資産	48,683			純資産	39,653				
			↓			↓			↓							
			収益性の回復が途上			改善傾向にあるが、総資本(総資産)の増加に対し売上高の増加が追いついていない ⇒【資産効率改善】が必要						自己資本比率が高く、純資産増加が続いている ⇒【財務レバレッジを活かせていない】				

⇒ROEは回復傾向にあるが、当社資本コスト(8%程度(WACC*))に対し、4%程度の**マイナスのROEスプレッド(ROE-資本コスト)**が生じている ⇒ **資本コストに見合った企業価値を生み出せていない状況にある**

※CAPM理論に基づく

(2) PER = 株価 ÷ 1株当たり当期純利益

⇒当社の成長性に関する市場の評価は十分とは言えず、今期の予想PERは13.7倍(9月末株価、今期業績)に留まっている。
収益力の回復を継続すると共に、当社の事業戦略、成長戦略に対する市場評価を高めるべく、IR活動の強化に努めている。

2

資本収益性、市場評価の向上に向けた対応策①

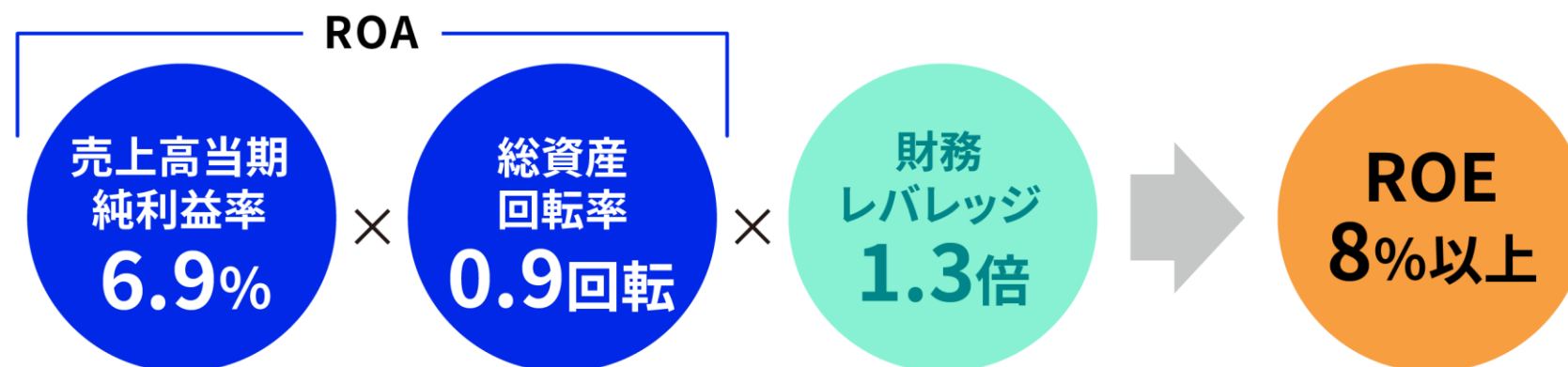
① ROE 改善策

目標 8%の早期回復（「中期経営計画」“Mission2025+2” の設定目標）

→ **資本コスト（8%程度）** を上回る ROE の早期実現

ROA 改善	成長 戦略	→電動化により新たに生じる得意先ニーズに対応し、“圧入プロジェクション接合”、“精密プレス技術”を始めとする既往独自技術により商品化 →既往独自技術の更なる進化、新たな加工技術の開発による競争力の強化 →独自の技術力を有する新たな調達先との連携による、新たな加工技術の開発 →積極的な設備投資によるグローバル・ファクトリー体制の強化（日本、米国、タイ、中国） → 優れた加工技術を有するメーカーとの新たな提携・M&Aの推進
	収益力 回復	→得意先、調達先との「適正な取引」確保による収益性の改善 →国内外製造部門の生産性向上、省人化・自動化による人材不足・賃金上昇への対応 →「社会的価値の創造」に資する ESG 経営を推進しつつ、適切な経費コントロールの実施
	資産効率 改善	→投資戦略の採算性強化、設備稼働率の向上 →政策保有株式の縮減、余資の効率的運用等、資産効率のアップ →総資産増加の抑制
財務レバレッジ改善		→エクイティ・コントロールの推進 →配当、自己株式取得等のタイムリーな検討・実施による純資産水準の適切なコントロール

2027年度末
目標水準



②PER改善策

(赤字：過去1年間の実施事項)

株主還元の
強化

- 積極的な配当方針 ①DOE：2.8%以上、②配当性向：35%以上、③「累進配当方針」
- 適切な時期・規模での自己株式取得の検討継続
- 「株主優待」の拡充（2025年9月末基準で実施）

IR活動の
強化

- 機関投資家との対話の強化：IRミーティングの開催強化
- 個人投資家との接点の強化：個人投資家向け会社説明会を開始（2025年10月）
- 「株主との対話」を通じて得られた意見を取締役会に定期報告し、CGC報告書で開示

その他
事項

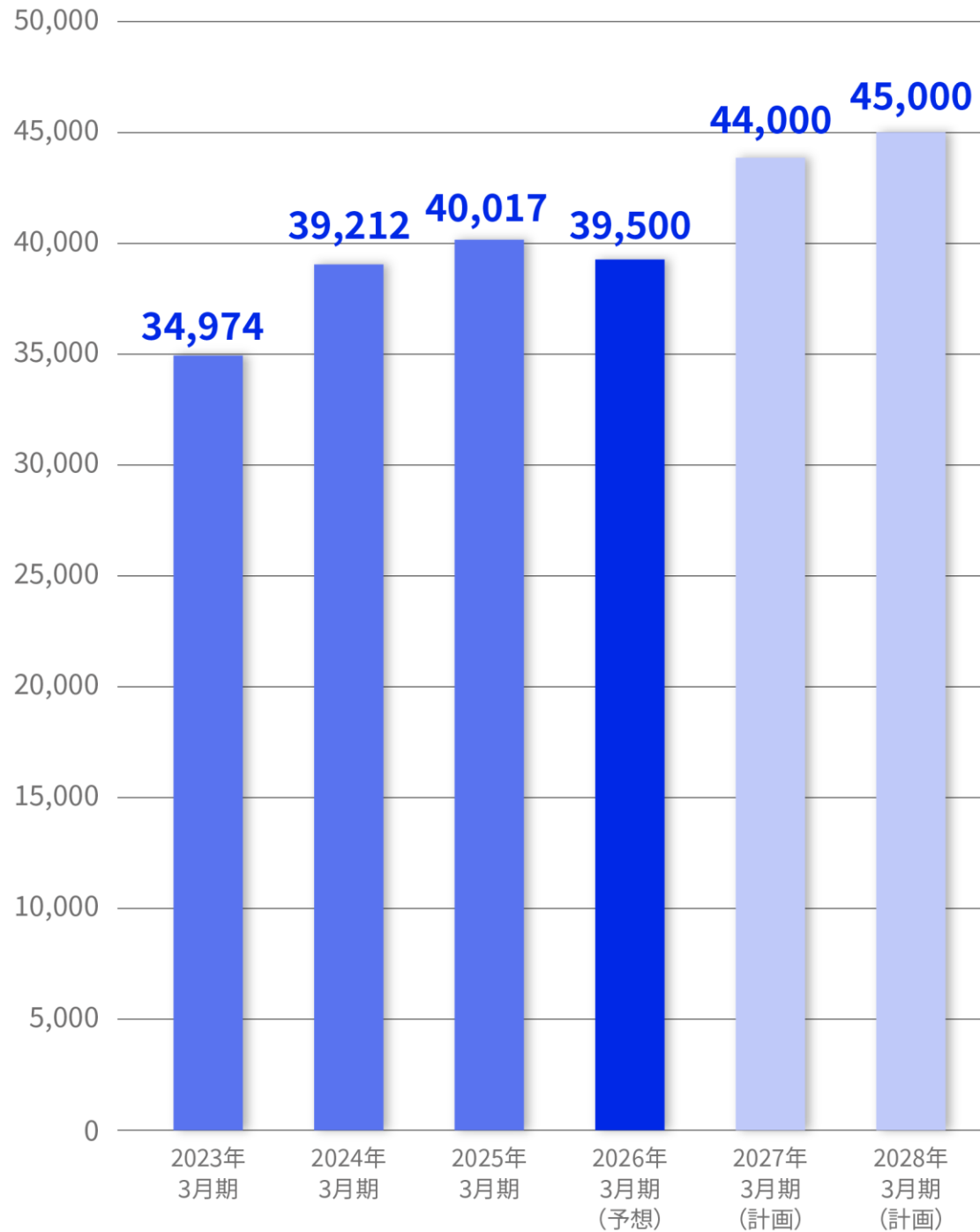
- 役員への株式報酬制度の導入推進
- 従業員への株式インセンティブ制度の導入検討
- 流通株式数の増加：株式分割の実施（2025年12月末予定、1株⇒2株に分割）



着実なROE改善策と積極的なPER改善策の実施により、
早期のPBR1倍達成を目指す

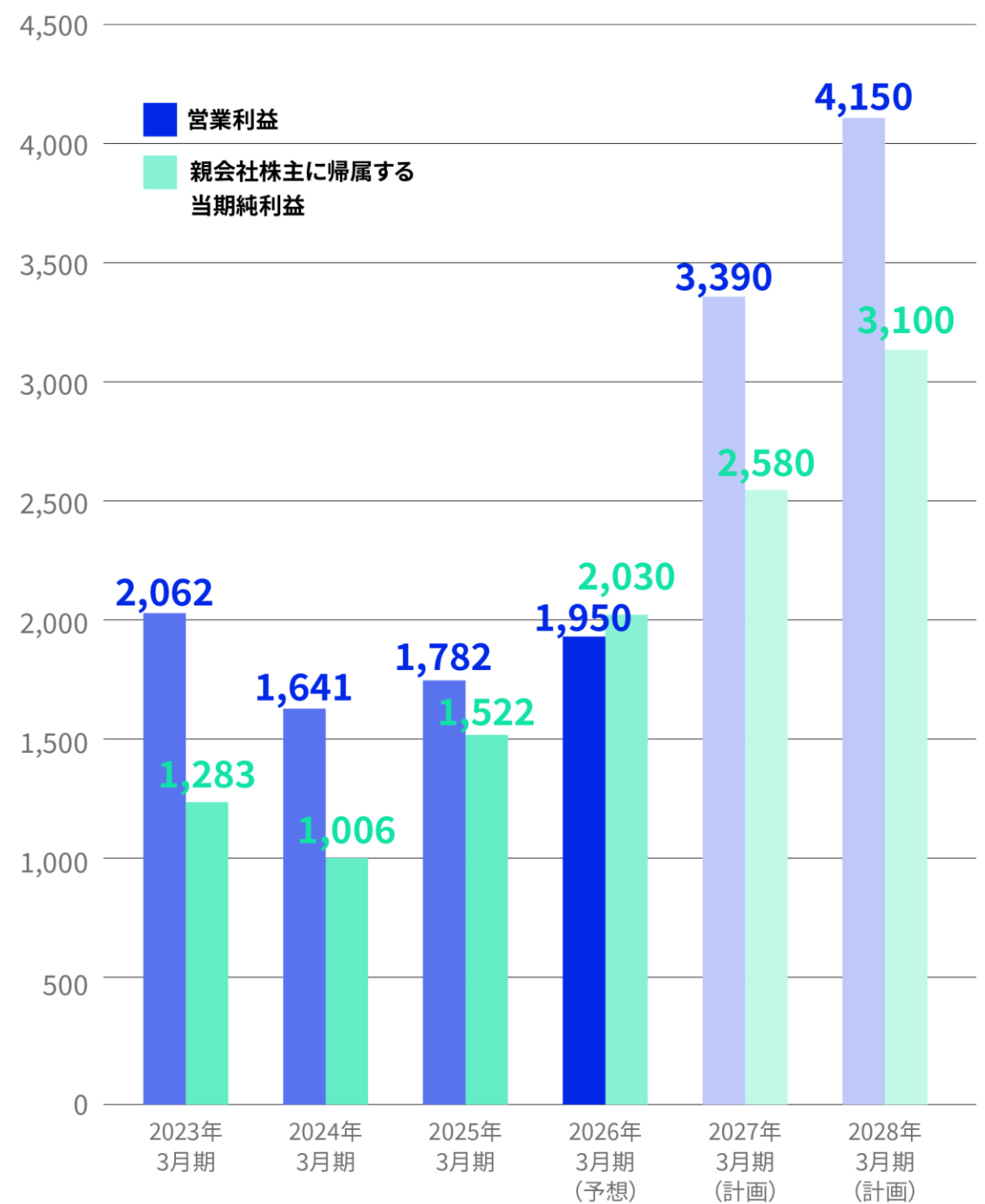
売上高

(単位:百万円)

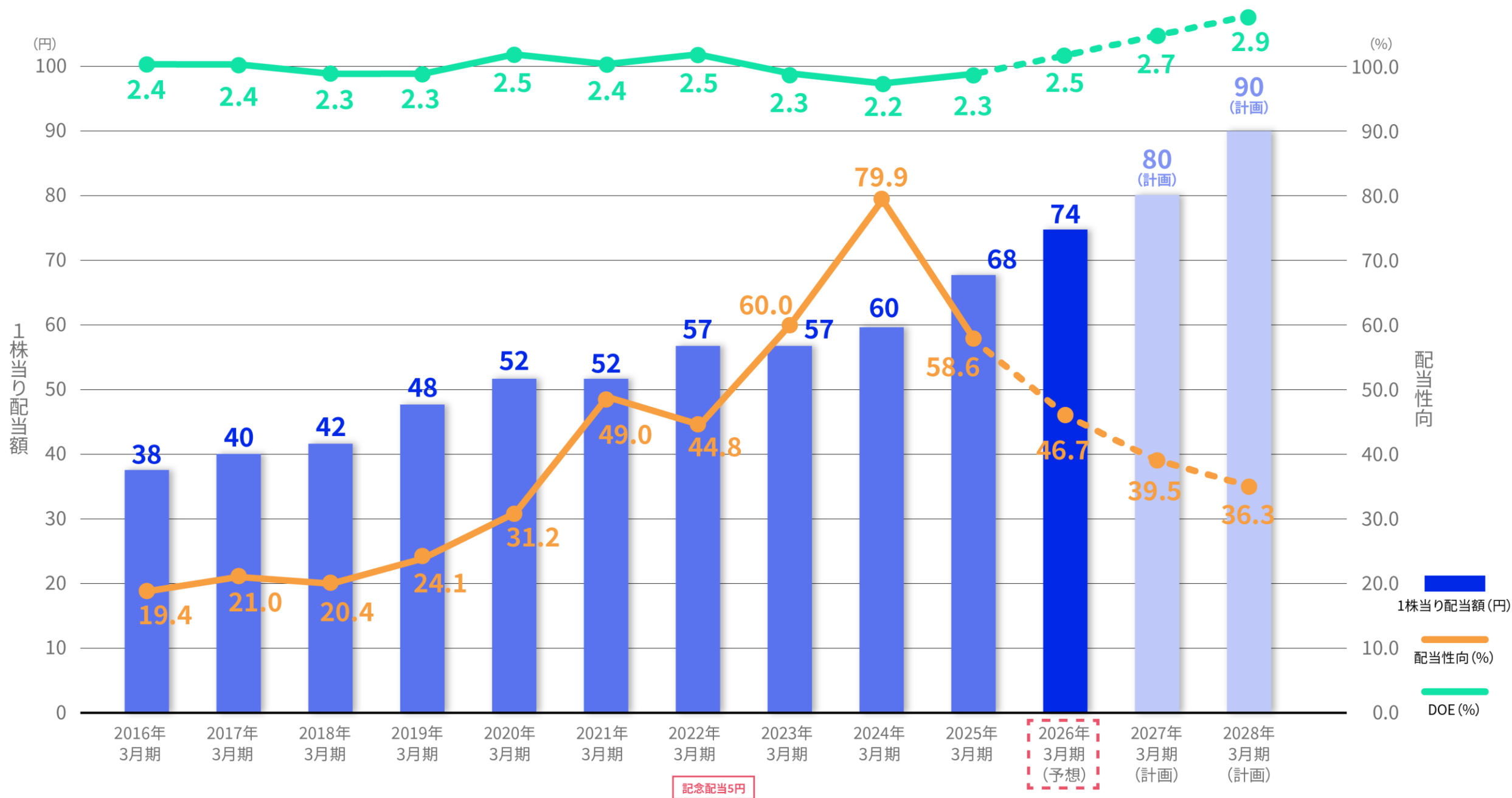


営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)

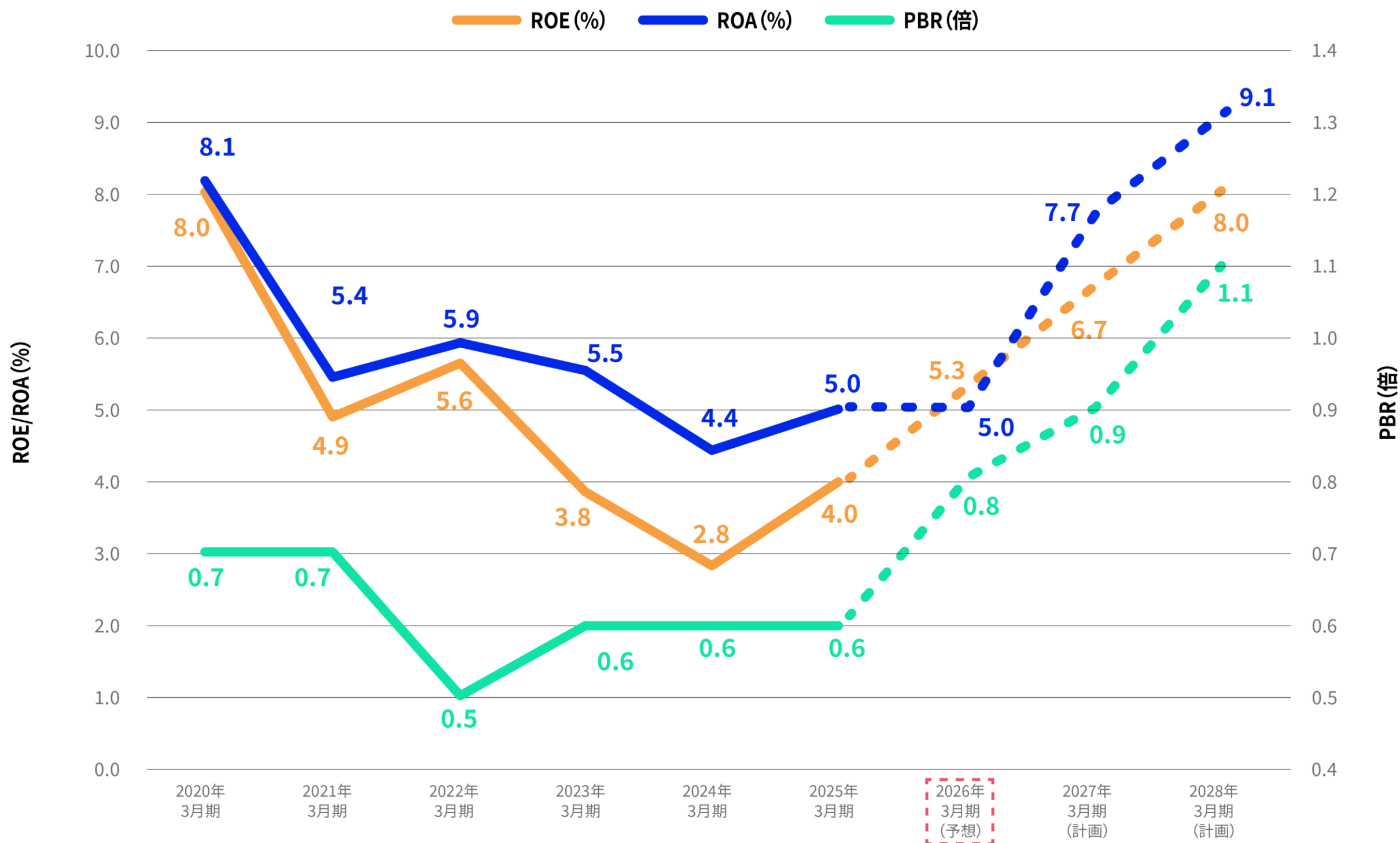


配当実績推移・計画



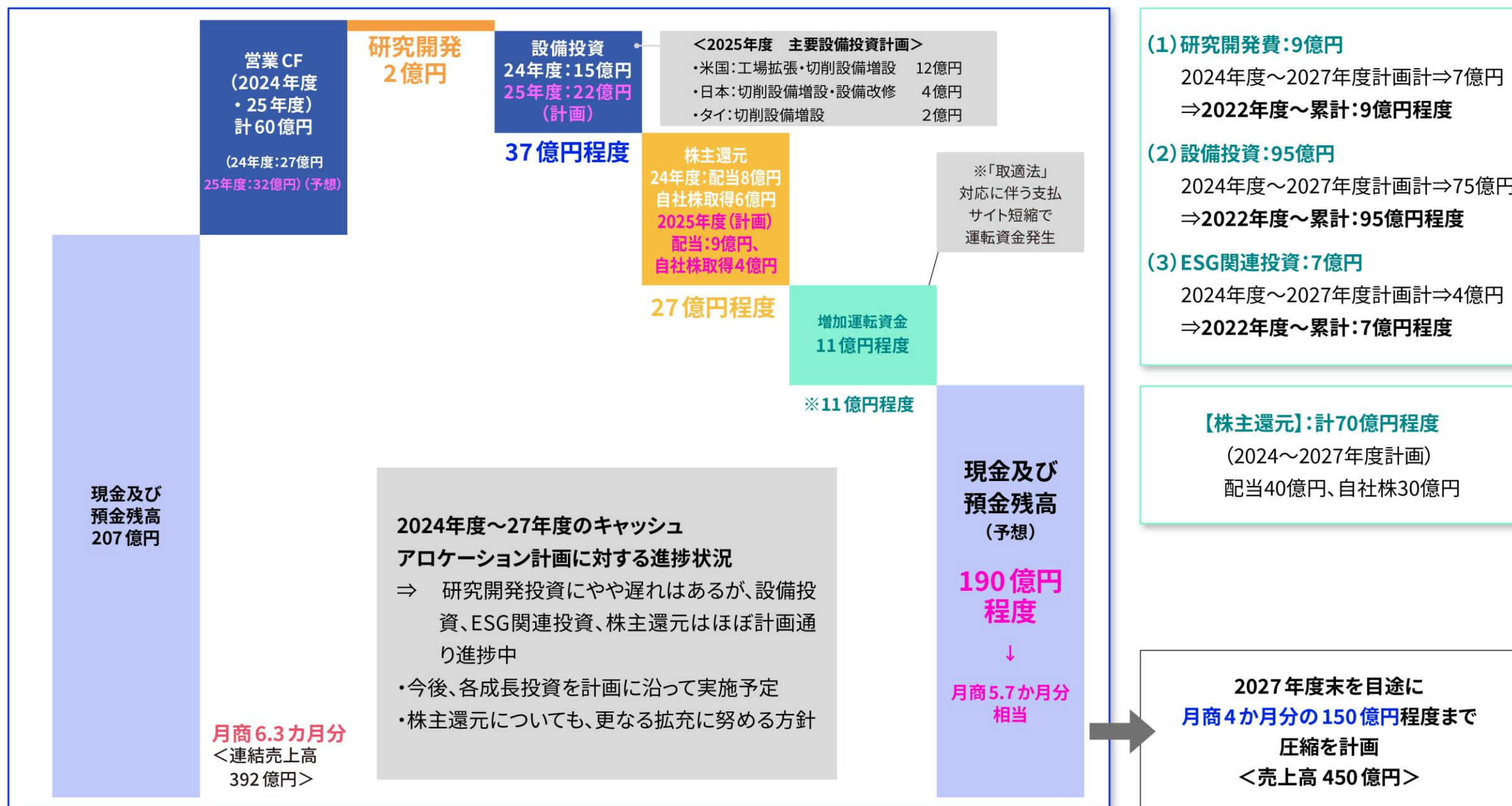
過去11年間で着実な増配に努めてきたが、今後収益力の回復と共に“累進配当方針”に基づき
持続的な増配と適時・適切な自己株式取得を検討し、株主還元の拡充に努める

収益性の回復により、ROE 8%の回復、PBR 1倍の達成を目指す



2024年度～2025年度（2力年の見込）

中計定量目標（6力年）





資料中の目標値・計画値は業績予想値ではありません。

また、資料中の将来に係わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、既知・未知のリスクや不確実な要素が含まれています。

さまざまな要因の変化により、実際の結果はこれらの記述内容と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

株式会社オーハシテクニカ